

佐渡島で越冬したコウライアイサ *Mergus squamatus*近藤健一郎¹

1989年、新潟県佐渡島において、コウライアイサ *Mergus squamatus* の雌1羽が越冬したので報告する。

日本におけるコウライアイサの記録は、1986年2月2日の岐阜県羽島郡羽島町の木曾川での観察記録が最初であり、以降木曾川では毎年本種の越冬が確認されている（伊藤 1988）。木曾川以外では、1987年12月に新潟県中蒲原郡横越村の阿賀野川河川敷で落鳥している雄1羽が発見されている（日本野鳥の会 1988, 新潟日報 1988年2月23日）。

観察地

コウライアイサが越冬した場所は、新潟県佐渡郡新穂村大字瓜生屋地内にある新穂ダムで、佐渡島のほぼ中央部、国府川上流域の山中、標高100mの地点にある。

新穂ダムは、総貯水容量141万t、水面面積16haの農地灌漑用ダムで、周辺はコナラが優占する落葉広葉樹林とスギを人工造林した針葉樹林に囲まれている。ダム一帯は、銃猟禁止区域に指定されている。また、ダムには新穂ダム漁業組合により毎年コイの稚魚が放流されている。

新穂ダムに渡来するカモ類は、留鳥のカルガモとオンドリを除いて、10月から翌年の4月まで滞在する。厳寒期の1月から2月にかけては、湖面が凍結するためカモ類は約5 km離れた加茂湖に移動する。1989年は暖冬で湖面は凍結しなかったため、カモ類は移動せずにダムで越冬した。

観察記録

1. 初認

筆者は、1985年からガン・カモ・ハクチョウ類全国一斉調査の調査員として新穂ダムと大野川ダムの調査を担当してきた。

1989年1月15日午前8時48分、同調査のため新穂ダムでカモ類をカウント中、カルガモの群れの中にアイサ類の雌1羽を発見した。カルガモの群れとともに湖面に浮かんで休んでおり、25倍の地上望遠鏡をもちいて詳細に観察した。その結果、コウライアイサの野外での識別点である胸から脇腹、上尾筒にかけてのうろこ状の模様とくちばし先端の白色部を確認して（Magde & Burn 1987）、コウライアイサの雌と同定した。

2. 終認

この雌は、1989年1月15日の初認から新穂ダムで継続して観察され、最後に確認されたのは、1989年4月13日であった。3日後の4月16日には確認されなかった。

3. 行動

新穂ダムで越冬したコウライアイサの日周行動は、ほぼ採食と休憩の繰り返しで、日中は頭を背中に入れ水面に浮かんで休んでいる時間が多かった。採食、休憩ともに単独であり、特定のカモ類と行動をとむにすることは、越冬期間中まったく観察されなかった。ときおり、接近したほかのカモ類にくちばしを大きく開けて威嚇する行動がみられた。採食は、朝夕に多く観察された。とくに、渡去が

近づくにつれて、採食に費やす時間が多くなる傾向がみられた。採食方法は、くちばしから目までを水中に入れて覗きながら移動し（図1）、食物をみつけると潜水して捕えるというものであった。採食は、決まってダムの周囲を岸辺に沿って一巡しながら、コイなどの魚類が多く集まっていると思われる浅瀬で主に行なわれた。潜水時間は15秒前後で、食物はコイ（緋鯉）で、コイ以外の魚類を捕えるのは観察できなかった。20cm位の大きなコイを捕えると、一度ではのみこめなくて、何回もくわえ直して必ずコイの頭部から飲み込んでいた（図2）。越冬期間中、新穂ダム以外の場所で観察された記録はなく、おそらく付近の湖沼へはまったく移動せずに、新穂ダムだけに滞在したものと考えられる。

4. 羽色

初認から終認まで、新穂ダムに滞在したコウライアイサ雌の羽色に変化はみられなかった。コウライアイサ雌の成鳥では、体の下面は白く、わずかに灰色を帯びたサケ肉色を呈しているとされているが（ヴォロビョフ 1966）、これは新穂ダムに渡来した個体にもあてはまり、この淡いピンク色が腹部のうろこ模様の周辺から腹部中央の一部にかけてみられた。このことから、新穂ダムに渡来した個体は、雌の成鳥と考えられる。



図1. 水中を覗きながら食物を探すコウライアイサの雌（1989年4月2日撮影）

Fig. 1. A female Chinese Merganser searching for fish.

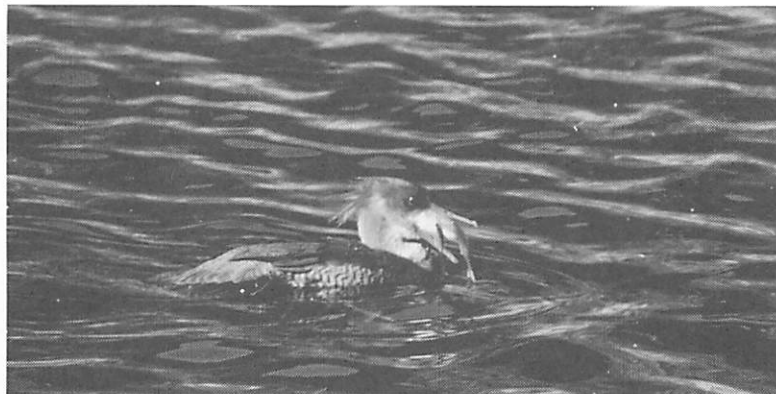


図2. コイを捕えて飲み込むコウライアイサの雌（1989年4月2日撮影）

Fig. 2. A female Chinese Merganser swallowing a carp.

考察

日本でのコウライアイサは、これまで木曾川と阿賀野川という日本でも有数の大河川のいずれも中流域で発見されている。佐渡島での今回の越冬記録は、山中の小さな人造湖であったことは注目される。このことは、コウライアイサの食物となる魚類が豊富で、ほかのカモ類が休憩地として集合するような安全な環境であれば、小河川や小湖沼でもコウライアイサの越冬地となりうる可能性があることを示唆している。

引用文献

- カ・ア・ヴォロビョフ. 1966. 野鳥の生態と分布. 新科学文献刊行会, 米子.
 伊藤恭博. 1988. コウライアイサの越冬記録. *Strix* 7: 267-274.
 日本野鳥の会. 1988. 日本に舞い降りた野鳥たち. *野鳥* 53 (4): 15.
 Madge, S. and Burn, H. 1987. *Waterfowl*. Houghton Mifflin Company, Boston.

1. 〒952-01 新潟県佐渡郡新穂村大字下新穂107-1

The first record of the Chinese Merganser *Mergus squamatus* from Sado Island

Kenichiro Kondo¹

A single Chinese Merganser *Mergus squamatus*, an adult female, was observed in the winter of 1989 on Niibo dam in Sado Island, Niigata Prefecture. It fed on carp by diving into the shallow water of the dam.

1. 107-1 Shimoniibo, Niibo-Mura, Sado-Gun, Niigata-Ken 952-01.

1989年11月10日受理